

知恵と努力で手に入れよう!

「幸せ&快適大家族の暮らし」

どうにも気の合わない相手もいれば、一瞬にして意気投合する相手もいる。

それは、人もどうぶつも一緒。

ある日突然、見知らぬ顔とひとつ屋根の下で暮らすことになったら……?

始めからうまくいかなくても、なんら不思議はない。

でも、ちょっとした知恵とたゆまぬ努力があれば

人もどうぶつもみんながハッピーになれる大家族の暮らしだって夢じゃない。



取材協力/西川文二先生 川口一恵さん

多頭生活を始める前に

YES ならばチェックを!

□ 経済面の余裕はある?

若いうちは健康でも、老齢になって医療費がかさむことは多々ある。家族が多いと、数年後に医療費の負担が重くのしかかることも。わが子が老齢期に入ったときにも十分な医療費を用意できるかよく考えよう。

□ 先住犬・猫の性格(社会性)は大丈夫?

先住の子が臆病だったりストレスに弱い場合、多頭生活に向かないことも。犬の社会性チェックシート(p2)や犬・猫のストレスチェックシート(p5-6)を参考に、先住の子が多頭生活に向くかどうか確認しよう。

□ 家族みんなのスペースはある?

新入りが先住の子と相性が合わないときは部屋を分ける覚悟で。無理でも、ケージを用意するなどして、それぞれが落ち着けるスペースを確保しよう。

□ 十分な時間はある?

猫の多頭生活は2~5頭くらいまでは世話に要する時間がほとんど変わらない。しかし、犬の場合は2頭いたら2倍の時間がかかると言われる。新入り犬を社会性ある子にするには、最初のうちは散歩も別々に行く覚悟が必要。

□ 災害時の備えはできている?

行政の対応や避難所の確認、同行の方法、避難グッズの準備ができるかがポイント。また、どうぶつのフード、トイレ用品、飲料水の備蓄は多めに。

□ 世話する人の年齢等は問題ない?

高齢者による多頭飼育崩壊の例が増えている。高齢でなくとも、世話をする人に何かあった場合のことを考えておこう(例:親戚にあらかじめ協力要請をしておく、近所のペットシッターに相談しておく等)。

※すべての項目にチェックが入った方は、どんなトラブルがあっても、きっと家族みんなで乗り越えられるに違いない。チェックが入らなかった項目については、もう一度対策をとって考えてから、新しい家族を迎えよう。

先輩に聞く、多頭生活の心構え

経験豊富な諸先輩方のメッセージから、 幸せ大家族のヒントを見つけよう

しつけインストラクター
西川先生からのメッセージ

社会性のある犬なら 多頭生活OK!

犬のしつけインストラクターの西川文二先生によれば、家庭犬の多頭生活が成功するかどうかは、先住犬の社会性にかかっているという(下チェックシート参照)。つまり、犬が社会で暮らすルールを身につけているかどうかということである。最近では、ドッグカフェ、犬と宿泊できる宿などが増え、犬同伴で外出する機会も多い。そんなとき、周囲に迷惑をかけることなく社会に調

和できる子が、「社会性のある犬」ということになる。

これは犬自身の問題というよりもむしろ、犬の習性を理解し、犬との信頼関係をきちんと築けるかどうかという人間側の問題であるという。犬を複数迎える場合は、それぞれの犬と人間の信頼関係を築くことが円満な大家族への第一歩。そのためには先住・新入りそれぞれの犬と十分なコミュニケーションをとる時間的余裕があることが最低条件となるだろう。

新入りを迎える前に、 もう一度考えて!

西川先生は、原則として犬の多頭生活を勧めないという。安易に多頭生活を始めて、問題行動がひどくなるケースを多く見てきたからだ。以下の理由で多頭生活を始めようとしているなら、もう一度よく考えて。

この子 (犬・猫)の 子どもが見たい

家族の一員だからこそ、子どもが見たくなるのも自然な気持ちだろう。しかし、近親交配や遺伝疾患への配慮がないままの繁殖は危険。また、犬や猫は一度にたくさんの子を産む。出産を望むなら、きちんとした勉強と新しい命への責任をもつことが必要だ。

1頭じゃ かわいそう (犬の場合)

「散歩中などにほかの犬と仲良くできない」という悩みをもつ方の多くが、「いつも1頭じゃかわいそう。仲間を……」と考える傾向にある。しかしほかの犬と仲良くできない犬は、むしろ1頭で生活するほうが幸せなのだ。2頭目を迎えても仲良くなれないばかりか、最悪は部屋を分ける必要が出てくることも。

1頭目の 問題行動を 治したい。

2頭目を迎えれば1頭目の問題行動がおさまるということは、まずないという。むしろ、問題行動がひどくなる危険性も。2頭目を迎えるのは、まず1頭目ときちんと向き合ってからその問題行動に対処してから。



←猫も犬と同じ方法でしつけることができる。西川先生の愛猫チビココアは「お座り」「お手」を理解している。



←プー(左)が高齢になったので、しつけのデモ犬2号としてダップ(右)を迎えた。ダップは現在社会化トレーニングの真最中。散歩も別々に行っている。

わが子(先住犬)は多頭生活に向いている? 社会化はちゃんとできている?

あてはまる項目にチェック!

- 外で動くものを追いかけ回すことはない。
Noだと、子犬や子猫を追いかけ回してしまうかも。
- ほかの犬とのすれ違いがちゃんとできる。
ほかの犬を見ると飛びついたり吠えたりする子は、新入り(犬・猫)を迎えたとともにひどくなる可能性が。
- ドアチャイムがなっても吠えない。
チャイムが鳴ると吠える子の場合、新入り犬との大合唱になってしまうことがある。そうってから1頭ずつトレーニングするのはとても大変。
- 家族との関係は良好
どんな状況でも、犬の名前を呼べば振り向く?(遠くにいる場合は呼び戻しができるか?)これができない子の場合、新入りを迎えると犬同士の絆のほろが強くなり、人間に従わなくなってしまうことがある。
- 散歩中や来客時の飛びつきはない。
先住犬が人に飛びつく子の場合、新入りもそのような子になってしまう可能性が高い。飛びつかれた人が転倒、ケガをして、裁判になった事例もあるので注意が必要。

※チェック数が多いほど、あなたの子は多頭生活に向いているといえる。チェック数が少ない方は、まずその子の問題行動を改善しよう。行動治療専門の獣医師、犬のしつけインストラクターなどの専門家への相談がお勧めだ。

川口さんからのメッセージ

猫の問題は ネコヂカラで解決

川口一恵さん宅を訪ねると、わらわらと猫たちが集まってくる。野良時代があったとは考えられないほど、どの子もフレンドリーだ。「この子たちの健康管理やコミュニケーションを大切にしたい」という思いから、ご夫婦ともに在宅の仕事に切り替え、毎日9時間を猫のために費やす。

かつては1時間おきに強制給餌をした子や1日5回布団にオシッコをしてしまう子もいた。



仲のよい猫の姿を見ているだけで幸せな気分になれる。川口さん宅では、親子、兄弟など仲良しのペアも多数。最初は仲の悪い子も次第に他の子と打ち解けていくという。

治療が必要な子には献身的な看護をし、問題行動は徹底的に原因を考え解決策を探す。「それらの苦労があったからこそ今の私がある」とほがらかに笑う川口さんに、多頭生活の醍醐味を尋ねた。

「多頭生活のよさは、猫同士のやりとりの中で彼らの心の成長があること。フレンドリーな子から愛情を注がれて、人間嫌いの臆病な子が心を開いていく。咬み癖のひどかった子が気の強い子に教育されて咬まなくなると。猫の問題は猫に任せたいほうがよい結果を生むことが多いです。私はその力を、ネコヂカラと呼んでいます(笑)」

苦勞を乗り越えて 至福の時間を満喫

もちろん、新入り猫を迎えるときは慎重だ。ケージ等で隔離する期間を設け、性格を観察し、じっくり時間をかけて先住猫たちになじませていく。その過程で、「この子の面倒はあの子に任せてみようか」と判断してい

くわけだ。川口さんご夫婦の努力とネコヂカラによって、新入り猫たちは少しずつ変化を見せていく。

「泥こんでガリガリですさんだ顔つきだった子も、家に迎えるどんどん毛艶がよくなってきれいになり、顔つきが穏やかになります。初めは威嚇し合っていた猫たちが寄り添って眠っている姿を見たときには、嬉しさがこみ上げてきます。冬は私の布団に猫が集まっ

てきてガリガリのようになり身動きがとれなくなり、彼らの重みとともにずっしりした幸せを感じるんです」

多頭生活には苦勞はつきものだ。しかし工夫や努力でそれを乗り越えることができる人には、大家族ならではの至福の時間が待っている。



猫たちは4部屋に分かれて暮らしているが、ここは大部屋。8頭の猫がのんびりと過ごす。ケージ、キャットタワー、ベッドetc.彼らが快適に暮らせるようさまざまな配慮が見られる。



数が増えても、1頭ずつをきめ細かにケアしている。アイン(写真)の闘病中は1時間置きの強制給餌を1年半続けた。

川口一恵さん

里親募集支援をはじめ、猫との生活のノウハウ等を記した個人サイトのアクセス数は1日7000アクセス前後。相談メールは100通に及ぶ。すべての猫とその家族の幸せを願う川口さんのサイトには、多頭生活のケーススタディなど猫に関する膨大な情報が掲載されている。

CAT'S EYES & CAT'S HAND'S
<http://www.catmew.net/>

家族構成はさまざま 仲良し家族への道のり

それぞれの組み合わせの特徴を知って
わが家に適した多頭生活を考えてみよう

猫 & 猫



● 室内生活の猫、留守がちな家庭の猫は、他の猫の存在が刺激となり、よい結果となることもある。

● 先住猫・新入り猫ともに若ければ、早く仲良くなることが多い。しかし、先住猫が1頭で生活していた期間が長いと新入りを受け入れにくいことがある。また、先住猫が高齢の場合は、やんちゃな子猫の存在がストレスになることも。先住猫・新入りともに成猫の場合は慎重に対面をさせ、時間をかけてなじませる。

● 猫の数が増えると攻撃的になる場合もある。パトルが生じたら、霧吹きで水をかけるとよい。双方ひるんでとりあえずおさまることが多い。けんかを避ける最良の方法は、兄弟猫を選ぶことである。

犬 & 猫



● 基本的に問題が発生しないケースが多い。猫は犬が嫌ならば高いところに逃げられるため、自然にテリトリーが分かれていくからだ。

● 犬よりも猫のほうが強いということを知っておこう。多頭生活の初めのうちは、留守中、部屋を分ける、どちらかをケージに入れるなどの配慮をしよう。猫が犬の目をひっかく危険性があるため、こまめに犬の目をチェックする。

● 犬猫ともに室内生活であり、犬が散歩に行く場合はノミなどの外部寄生虫をとが必須。また、先住犬がいるところに子猫を迎える場合、子猫のワクチネーションが終了するまでは犬と接触させないほうが無難である。

● 先住どうぶつが犬である場合、その子が散歩中に猫を見かけた際にどんな反応を示すかをあらかじめ観察しよう。もし追いかけてしまっただったら、新しく迎えた猫を追い回してストレスを与えられる可能性も。

犬 & 犬



● 安易に2頭目を迎えるのは避けたほうがよい。1頭目になんらかの問題行動がある場合は、それが増幅されることもある。

● 多頭生活が成功するか否かは、先住犬の社会性にかかっているといても過言ではない。犬の社会性は犬そのものの問題というより、「社会性のある犬に育てられるかどうか」という人間側の問題である。1頭目が社会性のない子である場合、同じ育て方をしたなら2頭目も社会性のない子に育つ可能性が高い。

● 新入り犬と人間が1対1で過ごす時間をきちんとつくるのが大切。それぞれの犬と人間の信頼関係をしっかりと築いておかないと、犬同士が仲良くなりすぎて人間がコントロールできなくなることもある。

先住動物と新入り動物が仲良くなれない場合

● パッチフラワーレメディを試してみよう。いじめっ子、いじめられっ子どちらにも効果も期待できる(参考:p5コラム)。

● 無理に仲良くさせるのではなく、部屋を分けるなどして共存の工夫を。「仲良し状態を見たい」というのは人間側のエゴであり、それをどうぶつに押し付けてはならない。距離を保って双方が快適に共存できるのであれば、その状態をよしとしよう。

● どちらかの攻撃性が激しい場合や、過度のストレスがかかっているように見える場合は、行動治療専門の獣医師、犬のしつけインストラクターなどの専門家に相談しよう。

参考：犬と猫の行動学(学窓社)

多頭生活向上のノウハウ

これから多頭生活を始める人も、すでに大家族で暮らしている人も、ちよつとした工夫や努力で、毎日がもつと楽しく快適になる！

新入りの迎え方

犬にとつても猫にとつても、新入りが来るといふことは大きな環境の変化にほかならない。環境の変化はストレスにつながりやすい。先住の子と新入りの子の対面は慎重に。

対面の基本は、新入りの子をケージ等に入れて先住の子の様子を観察することだ。いきなりケージもリードもなしに対面させてしまうことは避けたい。先住の子が怯えたり威嚇しているような場合は、数日かけてケ

ジ越しの対面時間を延ばしていこう。新入りの子のトイレを先住の子の部屋に置き、においから慣れさせるといふのも有効な方法だ。

こまやかな観察でストレスマネジメント

新入りを迎えることによつて、先住の子にストレスがかかり、粗相やマーキングといった問題行動が発現することがある。まず、ストレスがかかったどうぶつがどんな行動に出たり、どんな症状を見せるのか



左: ベンジーくん
右: メリーちゃん
愛知県名古屋市在住
金井康子さん

「メリーを迎えたときに、ベンジーにもすごいストレスがかかってしまいました。仲良くなれないばかりか、ベンジーの下痢がとまらなくなってしまって……。ベンジーと過ごす時間を今までの倍にして、さらに同じ時間をメリーと過ごすようにした上、ときどきふたりを対面させるようにしたら、約1カ月でふたりが仲良くなりました」



わが子のストレスサインを見逃さないで!

あてはまる項目にチェック。

- 検便・健康診断で異常がないのに、下痢や嘔吐が頻繁になった
- 興奮が収まらなくなることがある
- 攻撃的な行動、神経質な行動を見せるようになる
- しっぽを追いかけ、足をなめ続ける、吠え続けるといった、同一の行動の繰り返しをすることがある
- 急にリードを咬み始める、飛びつくなど突発的な行動をよく見せる
- 呼びかけてもアイコンタクトをとらないなど、家族に集中しないことがある
- 小刻みに震える、固まるといった状態になることがある
- 過剰な穴掘のしぐさをすることがある
- よく物を壊すようになった
- 無駄吠えをするようになった。くくん鳴くようになった

※どれかひとつでもあてはまる項目があったら、それがストレスサインの可能性がある。様子をよく観察し、専門家に相談するなど対策を考えよう。

Bach FLOWER REMEDIES

バッチフラワーレメディ

バッチフラワーレメディは、植物の力でストレスをコントロールし、心のバランスを取り戻して精神状態を安定させる自然療法。イギリスで発祥し70年以上の歴史がある。人間、どうぶつ、植物に効果が認められており、日本でも自然療法を実践する獣医師が取り入れるようになってきている。

38種類のレメディを状況などに応じて使い分けるが、今回は環境の変化に対応できるレメディを紹介しよう。使い方は、飲み水に混ぜる、スプレーで噴射する、肉球など毛の生えていない所に塗るなど、とても簡単。

レスキューレメディ

先住・新入りどうぶつともに、環境の変化、ほかのどうぶつの存在が原因でパニックを起こすことがある。攻撃的になる、あるいは硬直するといった行動が見られたら、まずはレスキューレメディを。

ウォルナット

環境が変わる場合(人間なら引越し、就職、結婚など)に、以前の環境と区切りをつけてくれる。新入りの子は、以前の環境から新たな環境になじみやすくなるし、先住の子は家族の愛情を独り占めしていたという環境と区切りをつけやすくなるだろう。

ピーチ

価値観が合わない、生理的にイヤという気持ちを抑えてくれる。多頭生活でいじめられる子が出てしまったら、いじめっ子のほうにピーチを。ワイルドオートとの併用も効果的。

ワイルドオート

岐路にたつて悩んでいるようなときに、一番よい解決に導いてくれる。多頭生活で仲良くないどうぶつ同士に飲ませると、適度な距離を保って共存できるようになる期待が。

※バッチフラワーレメディについての詳細→バッチホリスティック研究会 <http://www.bachflower.gr.jp>
公認プラクティショナーによる個別カウンセリング希望の方は、バッチホリスティック協会にお問い合わせを。
※取材協力/竹原梨恵先生(英国 Dr.Edward Bach 財団 公認プラクティショナー)→個別カウンセリングにも対応。竹原先生にカウンセリング希望の方もバッチホリスティック協会にお問い合わせを。

を把握し（p5～6ストレスチェックシート参考）、対策を考えよう。

いつからどのような症状を見せるようになったか、観察日記をつけておくとよい。これは獣医師、犬のしつけインストラクターといった専門家に相談する際も大いに役立つ。

多頭生活には欠かせない 去勢・避妊手術

同性同士のかんかを減らしたり、異性同士なら望まない妊娠・出産を回避できる。マーキング対策の観点からも去勢・避妊手術は有効だ。

特に猫の場合は繁殖力が強く年間3～4回出産することもあり、避妊・去勢手術を怠ったために過剰多頭飼育に至った例も多い。

犬と異なり猫には発情出血がないため、発情期に入ったことに気づかず、うっかり妊娠させてしまうことも多い。異性の猫と一緒に育てる場合は、早めの避妊・去勢手術を心がけよう（生後5カ月を過ぎたら、手術が済むまで部屋を分けるのが無難）。

愛される大家族になろう！ マナーやルールの遵守

多頭の場合、マナーやルールにも、より気をつけたい。自分たちの楽しみのために他人に不快な思いをさせないように、十分な配慮が必要だ。

集合住宅の場合は、頭数制限等のルールを守るのももちろんのこと、隣家、階下に騒音が響かないか、おいがもれないか、などのチェックを。

大家族だからこそその「予防」

多頭生活をすれば、当然医療費や食費の出費が増える。だからといってフードの質を下げたり、健康診断を怠ったりするのはNG！多頭生活でみんなが一度に病気になったなら、看病も医療費もたいへん。そうならないように、良質のフードを選び、健康診断をこまめに行うことで病気予防をしよう。トータルで見ればそのほうが出費を抑えられる場合が多いし、家族の健康は何よりみんなのハッピーにつながる。

多頭生活を快適に！川口さんオススメの掃除・洗濯術

●ニオイとさよなら！

ニオイは元から断つ

消臭剤ならニオイを分解するバイオ系を。

アンモニアには熱で対処

アンモニアは熱で分解されるので、オシッコ臭は熱湯をかけるのが一番。スチーム掃除機も絶大な威力を発揮。

クエン酸、酢酸を掃除に活用

ニオイをとってくれるうえ、殺菌力もある。しかもどうぶつにも環境にも優しい。

重曹で消臭

どうぶつのトイレに振りかけると消臭効果がある。じゅうたんの掃除の際は、重曹をまいてしばらく放置してから掃除機をかけるとニオイも汚れもとれる。

●抜け毛とさよなら！

強力な掃除機があると便利

布団、カーテン、カーペットなどもこまめに掃除機をかけよう。

雑巾がけで仕上げる

掃除機は毛が空中に舞ってしまうため、それが降りてきた頃を見計らって雑巾がけを。

家具の抜け毛にスリッカーを活用

どうぶつ用ベッド、じゅうたん、ソファ(カバー)などの布製品についた毛は、スリッカーブラシでかきとる(布が傷む可能性があるため、裏地などで試してから)。※使い古しのスリッカーブラシでOK。

どうぶつ用ベッドは手洗いが一番

どうぶつ用ベッドの洗濯は、シャワーで流しながら手で毛をかきとりつつ手洗いするのが一番(手洗い後に脱水機を利用)。



わが子のストレスサインを見逃さないで！

あてはまる項目にチェック。

- 過剰なグルーミングをすることがある
- マーキング、トイレ以外での排泄をするようになった(回数が増えた)
- 過剰な爪とぎをするようになった
- 検便・健康診断で異常がないのに、下痢・便秘や嘔吐が頻繁になった
- 食欲が落ちてきた。やせてきた
- 自分で毛をむしってしまうことがある
- 過剰に甘える
- 攻撃的になる
- 目の上の毛やひげが抜ける
- 家族の呼びかけや遊びの誘いを無視するなど、いじけた行動をとる

※どれかひとつでもあてはまる項目があったら、それがストレスサインの可能性もある。様子をよく観察し、専門家に相談するなど対策を考えよう。

